

# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311



教祖120年祭を目指し、  
道の後継者の育成を念頭に邁進しよう。

# 布教強調月間をつとめました

本年も9月1日～30日の1ヶ月間を布教強調月間としてつとめさせて頂いた。青年会では、1日に分会総会を開催し、その勢いで布教推進週間に突入。布教部では、22日・23日の両日、布教所長成人研修会を開催し、月末の全教一斉にをいあげデーに向けて奮起を促した。

## 布教所長夫妻

### 成人研修会開催

布教部では、九月二十二日・二十三日と一泊二日に亘り、布教所長夫妻成人研修会を開催し五十四名が参加しました。

布教所の総数から考えますと、参加者が少ないと云わざるを得ません。原因は色々あると思われます。参加したくても高齢のため健康状態が思わしくない。又、上級の会長さんに尋ねますと、入院中とか、老人ホームに入所しているという所長さんも相当数おられるようです。

参加の呼び掛けは、上級を通して、かさおかを通して、直接電話でも致しましたが、まだく十分ではなかつたのではと反省致しております。

ひとつ気懸りなのは、参加申込み者の出席率が70%に留まったことです。例年こういう数字が出ておるようです。この点の改善も含めて、次回開催ではどうでも参加者の増加の御守護を頂くべく案内の方法など再検討致したいと思ひます。

今回は、大教会長様の親心で一日目の夜は、全体のねりあいを親睦会

形式として、弁当・飲物を用意して頂き、懐かしのメロディーを聴きながら大教会長様にも御出席頂き一人一人に親しく語りかけて日頃の労をお高い下さいました。最近にない試みでしたが、大いに楽しんで頂き大変好評のようでした。

二日目は、十九才から単独布教に出で、九年後に教会設立、部内四ヶ所の御守護を頂かれた、岐美部属越美錦分教会長・田口美代子先生の講話を頂きました。

先生は、根であるおぢばから流される旬々の理、教会から流される理につな

がっていないと枯れてしまふ、根から充分に栄養を吸わせて頂くよう親から流されることを素直に実行すること。にをいあげおたすけも、行動してないから結果が表われない、結果が表われないから神様をありくと見ることが出来ない。親から教えて下さったことを素



直に実行することが親神様にお喜び頂いているという気持ちにならないと、にをいあげおたすけは出来ないと思ふとお話し下さいました。

又、どのようなたすけするものもしんぢつのをやがいるからみなひきうける。と仰っている。どんな御守護をも見せて頂くには、よふば

くは常に心が澄みきることが大切である。霧の中の車の運転は、先

が見えなくて不安でありノロノロ運転するよ

うに、信仰も心に不足・不満・埃という霧がある

といつまで信仰しても素晴らしい景色が見えてこないとお話し下さいました。

午後から加賀港布教所長夫人の品川さんと、稲福布教所の高島裕次郎さんの感話があり、続いて最後のねりあいに入り、日程を終了しました。アンケートの所感に依りますと、自分は本当の信仰からかけ離れた通

り方をして  
いたのがよ  
く分かった  
落ち込みそ  
うな気持を  
元気づけら  
れた、又、  
殆どの人が  
感動と勇み  
心を与えて  
頂き、実動  
に頑張らせ  
て頂きたい  
との感想を  
頂きました。



熱心に聴講する受講者

(布教部長 佐藤道孝)

## 全教一斉にをいがけデーを

### 振り返って

昭和七年に「全教一斉路傍講演デー」として始まりました「全教一斉にをいがけデー」も回を重ねて、今年も提唱七十周年の節目を迎えました。

にをいがけ課では、数年前より「四千万軒家庭へのをいがけ」を合言葉に、リーフレットを使って、縦と横が一丸となって進められて来ました。

本年も教区・支部はどれだけ多くの家庭にリー

フレットを配布できるか、教会・布教所は、にをいがけのできるよふぼくをどれだけ多く育てられるかが目標でしたが、笠岡大教会では、殆ど時を同じくして、大教会創立記念祭へ向って「百万軒にをいがけ」を提唱して頂いたお陰で、全教会でためらうことなく実動出来たと思えますが、しかし、にをいがけは、公園の草を引いたり、通路のゴミを拾うひのきしんと違って、すぐに結果が出ない、成果が表れない、又、教理に自信がない、なか／＼話を聞いて頂けない等あって、「ひのきしんデー」のようにはなかなか参加して頂けないのが実状ではないでしょうか。

訪問してありましたところ、ある家で、「実はうちの長男は仕事が長続きしないで、次々と転職ばかりして困っております、何か良い方法はないものかと家族で話しております、天理教のホームページで修養科のことを知りもっと詳しく知りたいと思っていたところなんです」そこで、支部長の息子さんは、私は未熟なので教会の会長さんにお話を聞いて下さいと、教会へお連れした結果、九月に家族四人が別席を運ばれ、長男さんが十一月から修養科に入られることになったそうです。

いつも同じ顔ぶれの人しか参加して頂けない、どうしてもにをいがけは苦手の人が多いのではないのでしょうか。

「こつこつお話は数多くあることではございません。やはり常日頃から御恩報じを念じて、強いたすけ心を持って行動する教会長に、よふぼくに、不思議な御守護をお見せ下さるのではないのでしょうか。私たちが実践いたしました「百万軒にをいがけ」は決して過去の活動にしてしまうのではなく、これからも全教会で継続され、教祖百二十年祭活動の柱としてつとめさせて頂くのではございませんか。

実は私も苦手の一人であります。只、教会長であるという自覚と、病んだ日のことを思いかえし、目が見える、手足が動く、声も出る、結構に身上をお借りしている感謝と喜びの心が後押ししてくれて出させて頂いております。

今年九月、ある支部長さんの息子さんが、無教会町村を手分けしてリーフレットを持って戸別



(布教部長 佐藤道孝)

# 談話室



## 磨き上げれば

川島郷分教会長 香取 雅人

少し前のことであるが、山あいにある静かな町の教会に参拝させて頂いたことがある。町内に分水嶺を持ち、かつては幕府の天領として栄えた趣のある町である。

そこで通して頂いた客間には、たつぷりと墨を使い、雄渾でありながらも実に爽やかで素直な筆致の見事な書が掛けられていた。

しかも少し視線を変えて見ると優しげな女性の後ろ姿のようにも見え、何も言えずにじっと見入っていた。

するとその教会の役員先生が、御本席様の御真筆ですとお教え下さり、「なるほどなあ……」と、改めて感動したことがある。

さて、その教会の床の間には、まるで『御真筆』を引き立てるように複雑にねじ曲がり、瘤だらけのつやつやと輝く見事な床柱があった。

何でも、常に強い風雨に曝される山頂に辛うじて残っていた唯一の木で、教会普請の時、信者の

方々によって慎重に樹皮を剥ぎ丁寧に磨き上げられた逸品だということであった。

どのような環境に育っても、たとえ複雑に歪みひねくれているにしても、一度教えの理によって心を磨き上げ、「よふぼく」として生まれ変わったならば、この見事な床柱のような役割を果たせるのではないのだろうか。

それよりもひねた木からたんくと

ていりひきつけあともよふを

(おひでさき 第七号 十九)

とお聞かせ頂くように、私たちは夫々の持ち場立場で努め励ませて頂き、陽気ぐらし世界建設のよふぼくとして、親神様、教祖にお喜び頂けるよう共に成人させて頂きたいと願う次第である。

## 雅鶯会 笠岡市の

### 公式文化行事に 初出演

9月21日、雅鶯会(大教会雅楽部……染長谷内伸自)は、4管立て、15人のメンバーで、笠岡文化連盟主催の第25回「名月鑑賞の夕べ」に出演。長唄・合唄・ピアノ・箏曲・日本舞踊・銭太鼓・大正琴・詩吟・茶の湯音頭・尺八・民謡など14の演目の最後14番目に出演して、「観客の足を引き留めてほしい」との連盟の期待に、見事に応えた。

演題は、平調の音取と越殿楽・陪臚の2曲。演奏の様子は全部ビデオに収録して、あくる日大教



会の会議室で披露した。

当日夕6時半に開会した催しが9時すぎに終了する迄、笠岡市長は会場に居られ、途中で挨拶され、又、「茶の湯音頭」の場面では、舞台の上で、

お茶の客をつとめられた。

会場の中央公民館についた時、4階の大ホールは、立見の客も、これ以上はいれない程に溢れ、ドアの外のホールも満員であった。雅楽演奏の終わった時、客席は、感極まつての大拍手となり、そのまゝ舞台に残っている状態の中、閉会の挨拶となり、その言葉の中に、初出演した雅楽への礼讃の辞がありました。

大教会の月次祭をつとめ終え、夕刻5時、直会もそこそこに集合して、楽器や舞台装置をワゴン車に積み込み、楽服姿に着替えて、マイクロバスで会場へ。夜10時前大教会へ帰り、翌朝は秋季霊祭に雅楽奉仕して解散した。

出演者

鞆鼓：谷内伸自、太鼓：黒瀬修式、鉦鼓：森本孝志、笙：西江昌直・武内清明・掛谷宣和・仙田公男、箏：森本重吉・原正彦・北川治史・森本忠善、龍笛：中島誠治・枝廣隆文・森本正典・森本実。雅楽会は来る11月3日、笠岡市民会館大ホール(104座席)で行われる「笠岡市制50周年記念 大芸能祭」に出演することが、文化連盟理事会(9月24日開催)で決まり、午後1時に始まる芸能祭プログラムオープニング(第一番目)を飾ることとなっている。(マネージャー 森本忠平)



大教会だより

II 辞令 II

立教165年7月21日付

◎登用

青年

上原志郎  
浅野明教

本部巡教のお知らせ

おちばの秋季大祭に於て教祖百二十年祭に向う諭達第二号の御発布がございませうが、その理の徹底と活動について直属教会への本部巡教がございませう。笠岡大教会では左記の通り巡教を頂くことになりましたので、その理を受けられますよう御案内申します。

記

- 一、巡教日時 十一月二十一日午後一時より
- 一、巡教員 本部員 飯降政彦先生
- 一、参加者 大教会役員、おつとめ奉仕者、教会長夫妻、布教所長、教会後継予定者
- 一、服装 ハッピー着用のじゅん

笠岡の五歌人

養徳社発行の『陽気』誌には「道柳」と題されたコーナーがあり、定められた課題について、全国の教友達が心の綾を歌った秀歌が並ぶ。

10月号のお題は「糸」。

「今月も、笠岡関係の人が載つてるかなあ？」と編集子が頁をめくると、なんと、天位に次ぐ地位に「東京都 田林美智子」とあった。直轄・東悠分教会会長夫人である。

細けれど真実太し道の糸

続いて人位・秀詠。秀詠の一に「広島県黒瀬修式」とある。直轄・油木分教会会長である。

人は皆親神おやにつながる一系なり

秀詠の締めは「大阪市 杉原幹夫」芳阪布教所長

教祖と子のつなぎの糸が日々太り

準秀詠に「倉敷市 香取敏子」川島郷分教会前会長

たてよこの糸で織りなすたすけ合い

同じく「大阪市 杉原優子」芳阪布教所長夫人

おちばの夏一系乱れず鼓笛隊

今月の選は69首。その内に実に5名の笠岡の方々が選ばれて掲載されていた。快挙！快挙！！

今後とも、諸氏のご健闘をお祈りし、なお、『かさおか』誌へのご寄稿もお願い致します。

# 九月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には「いちれつのことものがかはいそれゆへにいろ／＼心つくしきるなり」とお望み下さる一列子供の陽気ぐらしを楽しみに長の年月変わらぬ親心と御守護をお与え下されお育て下さっております事は誠に有難く存じます加えて只一つ我がものとお許し下さった心の自由を使い誤り陽気ぐらしとかけ離れてゆく姿を見るや直ちに身上事情にしるしを付けて心の向きを立て替えて下さいます事も誠に有難く勿体ない極みでございます お陰を持ちまして私共は確實に喜びと感謝の心が弥増して日々結構に生活させて頂いておりますが世の中には未だその理がわからず目先の苦しみと心を惑わせている人が多くいます事は只々私共の成人の足りなさ故の事と反省しつつ御恩報じの心で日夜たすけ一条の上に勤め励まして頂いております その中にも今日の吉日はたすけの理を現し陽気ぐらしへと立て替えるべくお教え下されたおつとめをつとめる日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜びを心一杯に湛えて明るく陽気に勇んで座りづとめをつとめ奉仕者一同喜びを次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日の日を樂しみに寄り集い相共にお歌を唱和し同じ思いに伏し拝む皆の真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

又今月にはいけ強調月間とお打ち出しを頂いておりますので青年会の布教推進週間や教区支部のパンフレット全戸配布等の活動を利用し今日まで勇んでいけがけに歩ませて頂きましたが月末二十八日から三十日の全教一斉にいけがけデーを目指し益々勇んで勤めさせて頂く所存でございます更には又来月は大祭月に当りますので全直轄教会に対し秋季大祭参拝を実施させて頂きます 本年は教祖百二十年祭に向けての地下作りの年と位置づけさせて頂いておりますが来る十月二十六日の本部秋の大祭で真柱様より年祭に向けて諭達第二号を御発布戴く事になっておりますのでそれに向けて一手一つの心作りをさせて頂く所存でございます 何卒親神様には句々の親の声を頼りに成人を目指し精一杯に歩む皆の真実の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に自由の御守護を賜り句々に応じた喜びと感謝に溢れる成人の姿をお見せ下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 学生のつとめ

日時 11月23日(土) 午前10時～午後3時頃まで  
 対象 学生層(高校生・大学生・専門学校生など)  
 会場 笠岡大教会  
 内容 学生会・青年会・女子青年の行事紹介、模擬店(昼食)、グループワーク

## 婦人会委員部長後継者講習会

日時 平成14年11月23日(土・祭日) 午後4時30分 受付  
 24日(日) 午後1時30分頃 解散  
 場所 笠岡大教会  
 参加御供 1,000円  
 対象 委員部長後継者  
 内容 大教会長様お話・支部長挨拶・感話・ねり合い等  
 携行品 ハッピー

\*尚 欠席される方・託児の必要な方は 11月15日迄に御連絡下さいますようお願い申し上げます

## 秋季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の御霊初代真柱様並びに奥様の御霊二代真柱様の御霊中山家ご先祖の御霊大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の御霊初代会長上原さと刀自の御霊二代會長上原伊助大人光刀自の御霊三代會長上原繁雄大人くにゑ刀自の御霊四代会長上原郁雄大人の御霊大教会創設の頃より長の年月歴代会長を志に共に御苦労下さいました役員部内教会長教人よぶく信者の御霊諸々の御霊の前に會長上原理一慎んで申し上げます

御霊様方には親神様教祖のお見定めにより早くからこの道にお引き寄せ頂かれ身上や事情を通して親の声を聞き分け我身我家の因縁を悟り貨物借物の御恩報じの思いと共に因縁納消を念じつつどんな難儀不自由の中も心倒すことなく只一筋に親神様教祖に凭れて生きの限りたすけ一条の道を歩み切られました これの笠岡の道が創立百周年を越え今日の結構な姿をお見せ頂いておりますのもひとえに親神様教祖の御守護導きの賜である事は申すまでもありませんが又一つには御霊様方が一身一家の都合を捨て神一筋にたすけ一条の真実の伏せ込みをして下さったお陰と朝夕に御礼申し上げつつ私共も後を受けたすけ一条の日々を歩ませて頂いております その中に本日は秋の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので言改めて御礼申し上げます秋の霊祭を称えたいと存じまして御前に旬の草々の物を供えて只今はおつとめ奉仕者一同参来集うゆかりある人々と思いを一つにし親神様の御前にて陽気に勇んでてをどりをつとめさせて頂きました 皆の真実の姿を御覧下さいまして御霊様方にもお喜び頂きご安心頂きたく存じます

さてお道は今教祖百二十年祭に向け下地作りの日々を歩ませて頂いておりますが来る十月二十六日の本部秋季大祭に於いて真柱様より諭達第二号を御発布戴いていよいよ本格的に年祭活動を推し進めて行くことになっております まず本部巡教が行われ続く来年三月から六月にかけて地方講習会が行われた後実動へと移っていきまますが笠岡は地方講習会を待たずして年明け早々に実動に取り掛かれるよう体制を整えております 何卒御霊様方には只親の声を待つだけでなく先んじて動こうとする皆の真実の状を御覧下さいまして笠岡に繋がるお互いが喜びと感謝の心に満ち溢れたすけ一条に奮い立って下さす笠岡の道が伸び広がりますすようお導きお力添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

### \* みんなそろってひのきしん \*

|         |        |
|---------|--------|
| 献血ひのきしん | 12月21日 |
| 年末大掃除   | 12月22日 |
| 詰所餅搗    | 12月27日 |

### ・原・稿・募・集・

**内 容** ①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事 等々

**字 数** 1000字前後(800字~1200字)。

題名・所属教会名・氏名を明記してください。俳句等は1首からでも結構です。

**寄 稿 先** 下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿ください。

郵 便 : 〒714-0066 笠岡市用之江377

F A X : 0865-66-1314

電子メール : [kasaokazaki@rio.odn.ne.jp](mailto:kasaokazaki@rio.odn.ne.jp)

なお、原稿はお返しいたしませんので、予めご了承ください。

### 第 7 4 0 期 修 養 科 募 集 要 項

**\* 修養科期間**

立教165年12月1日～立教166年2月27日

**\* 教 養 掛**

- 3ヶ月間 岡 崎 真 一 (大教会役員)
- 1ヶ月目 高 橋 徳 行 (亀田山分教会長)
- 2ヶ月目 時 宗 一 実 (吉 舎 分教会長)
- 3ヶ月目 瀬 良 善 彦 (高児島分教会長)

**\* 募集要項**

- ・ 志願者は、12月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・ 11月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・ 3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、3月1日の昼食後に解散。

**\* 教 科 書 (必須)**

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

**\* 参 考 書 (出来れば持参)**

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

**\* 携 行 品**

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

**\* 服 装**

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

| 書 類            | 大教会 | 詰所 | 備 考   |
|----------------|-----|----|---|
| 「順序参拝票」        | ○   | ○  |   |
| 「別 席 願」        | ○   | ○  | ・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。          |
| 「席 札」          |     | ○  |   |
| 「別席のしおり」       | ○   | ○  | ・ 願書に日付を入れない事。<br>・ おさづけの理拝戴願の順序参拝も合わせて行なう。 |
| 大教会 御供         | ○   |    |   |
| 本 部 御供         |     | ○  | ・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。                |
| 「おさづけの理拝戴願」    | ○   | ○  | ・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。<br>・ 願書に日付を入れない事。 |
| 「おはなし」         | ○   |    |   |
| 大教会 御供         | ○   |    |   |
| 本 部 御供         |     | ○  |   |
| 「修養科入学願」       |     | ○  | ・ 御供は任意であるが、慣例により、200円以上。                   |
| 「修養科入学事由書」     |     | ○  |   |
| 修養科入学御供        | ○   |    |   |
| 「住民票」または「戸籍抄本」 |     | ○  | ・「戸籍記載事項証明書」、「身分証明書」でもよい。                   |



『逸話篇』「三一 天の定規」に「世界の人が皆、真っ直ぐやと思っている事でも、天の定規にあてたら、皆、狂いがあります」と教えられる。

同じ『逸話篇』の「一六七 人救けたら」には「人言伝ては、人言伝て。人頼みは、人頼み。人の口一人くぐれば一人、二人くぐれば二人。人の口くぐるだけ、話が狂う。狂うた話した分には、世界で誤ちが出る。誤ち出来た分には、どうもならん」とお戒め頂く。

立教は165年である。つまり、それだけの年限が経ち、教祖自らお聞かせ下された御教えも、現在の私たちにとっては、先達先生方からの又聞きに過ぎない。

一体、教祖は何をお教え下され、何を望みなのだろうか？ 教祖120年祭を目前に控え、立教165年の時空に身を置く私たちにとっての羅針盤は何だろうか？

ある人は、「○○しなければ」と言い、「○○してはならない」と言う。それが教祖の御教えだろうか？

徳の為すがまゝに勝手気儘に歩む者もある。不徳の致す所と懺悔し続けて只管年限の理を重ねる方もある。誤の分からぬまゝに年限だけを重ねるのも術である。

この道は「悟りの道」ともお聞かせ頂くが、「勝手」の二文字は禁物である。

「儒教の戒め」大いに結構、「倫理」も「道徳」もそれなりに。しかし、自らを律するには足りるが、そもそもこの道は「一名一人の信仰」である。

教会長が教会を思う心も、一信者が如何に歩むべきかを悩む心も、たすけ一条の親心に通じていなければ道の信仰とは言えない。

「一人万人に向う」とお教え頂く。「私なんか」ではなく「私だからこそ」を探して年限を深めたいものである。